

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会会議
日 時	令和5年2月7日(火) 19:00～20:10
場 所	Web会議
出席者	西村会長(徳島大学病院)、金山部会長(徳島大学病院)、川端委員(徳島県立中央病院)、石倉委員(徳島赤十字病院)、古本委員(徳島市民病院)、安藤委員(徳島県立三好病院)、影治委員(徳島県立海部病院)、林委員(吉野川医療センター)、 漆川委員(徳島県鳴門病院)、田上委員(阿南医療センター)、森委員(徳島県医師会) 傳平委員(徳島保健所)、香留委員(患者会)、東條委員(徳島県介護専門員協会代理:佐藤氏)、飛梅委員(徳島県歯科医師会)、中村委員(徳島県薬剤師会)
欠席者	川人委員(緩和ケア部会長)、藤原委員(阿波病院)、鎌村委員(徳島県保健福祉部)
陪席者	徳島大学病院:滝沢医師、横田副看護部長、尾形看護師長、近藤MSW、福田MSW、秋月MSW 部医事課患者支援係長、宮越技術補佐員 徳島県立中央病院:有馬MSW 徳島赤十字病院:高木氏 徳島市民病院:梶村氏 徳島県立三好病院:菅原氏 徳島県鳴門病院:郡氏 徳島県保健福祉部:竹谷氏
<p>議 題 添付資料①</p> <p>金山診療連携部会長の指示のもと、徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会が新型コロナウイルス感染予防のため、Web会議での開催となった。</p> <p>金山部会長から、本日の会議は事前にメールで送付している資料に基づき、議題に沿って進行していくとの説明があった。</p> <p>【報告事項】</p> <p>1. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会報告について</p> <p>徳島大学病院近藤医療ソーシャルワーカーから、添付資料②に基づき都道府県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議参加報告があった。</p> <p>1)今年度も都道府県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会会議は2022年11月24日にWebで開催された。</p> <p>2)「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」の見直しの要点について、厚生労働省健康局がん・疾病対策課より説明があった。</p> <p>①がん診療連携拠点病院等の指定類型の変更点は、都道府県がん診療連携拠点病院、特定領域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院それぞれに要件未充足の際の特例型が新設された。また、地域がん診療連携拠点病院(高度型)の指定は廃止となった。</p>	

②がん相談支援センターに関する要件は、病院を挙げて全人的な相談支援を行うという内容が加わっている。オンライン相談など必要に応じてICTを活用すること、コミュニケーションに配慮が必要な者や日本語を母国語としない患者への配慮を行うことなども追加されている。また、周知に向けた取り組みに関して、外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制を整備することが望ましいという要件が追加された。次回の指針改定ではこれらを必須要件とすることが念頭におかれている。がん相談支援センターの具体的な業務内容は、これまで指針の中で記載していたが、今回指針本文のスリム化と、内容を柔軟に変更できるようにする観点から、「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針に関するQ&A」という通知で別途案内している。

3)その他、整備指針を踏まえたがん相談支援センターの活動について、がん相談支援センターのPDCA実施状況チェックリストの更新（案）、都道府県単位での連携強化の取り組みに向けて事前アンケート結果の共有、小児がん拠点病院とがん診療連携拠点病院との連携、がん相談支援センターの活用促進と周知に向けて-「がんと診断されてまもない人への情報提供資材」の活用事例の要求と（岐阜大学医学部附属病院）がん相談支援センターの取り組み報告や、院内での診断後間もない人への情報提供方法等の報告があった。

徳島大学病院近藤医療ソーシャルワーカーから、当日配布された資料から重要な箇所を抜粋した説明があった。

- 1)外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問できる体制を整備することが望ましい。診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう繰り返し案内を行うこと。がん相談支援センターを初めて訪れた者の数を把握し、認知度の継続的な改善に努めること。
- 2)就学、就労、妊孕性の温存、アピアランス等に関する状況についても自施設もしくは連携施設のがん相談支援センターで対応できる体制を整備すること。
- 3)がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制を整備すること。他施設とも情報共有すること。

金山部会長から、次期第4期がん対策推進基本計画案について検討されている。外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問できる体制を整備することとなっている。今後、決定次第体制整備に取り組まなければならないとの報告があった。

香留委員から、指針が出されたことから指針に沿ってスケジュールを教えてください。全国の施設からのアンケートも回答していた。アンケート回答時に抱えていた課題や問題点があれば、認定がん相談支援センターが全国で指定されているが徳島県はどうかとの質問があった。

金山部会長から指針はいつ出るとのかとの質問があった。

宮越技術補佐員から、現在は案となっており2022年度末の2月から3月までに閣議決定される予定であるとの回答があった。

金山部会長から、現在の指針は案となっており具体的に閣議決定されれば取り組まなければならない。アンケートについてはどうかとの質問があった。

【※後日、委員のご指摘により事実関係に即して下記のように補足として追記を行う。

がん診療連携拠点病院等の整備(指針)については令和4年8月1日より施行されている。

第4期がん対策推進基本計画案が2022年度末に閣議決定される予定となっている。】

宮越技術補佐員から、当院ではがん相談員らでアンケートに回答した。当院では、がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制を整備となっており、どのようにフィードバックしていただけるのか、方法など検討しているとの回答があった。

金山部会長から、国立がん研究センターホームページを見ていただきたいとの回答があった。続けて、金山部会長から認定がん相談支援センターについて詳しい方はいるかとの質問があった。

福田医療ソーシャルワーカーから、詳細についてはすべて覚えてはいないが認定がん相談員が2名以上いることが条件であった、認定がん相談員は、様々な研修会に参加し、認定員を取得するにも数万円の個人負担が必要となるとの回答があった。

都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会の詳細については URL を参照。

第 19 回 情報提供・相談支援部会 Web 会議

https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryo19/index.html

2. 徳島県民がんフォーラム報告について

金山部会長から、添付資料③に基づき「徳島県民がんフォーラム2022実施報告者」について報告があった。

- 1) 令和4年10月30日(日)に徳島大学大塚講堂にて徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。3年ぶりの集客開催であったが、新型コロナウイルスの影響で収容人数も制限して行った。なお、当日の様子を徳島県内のケーブルテレビで放映を行った。
- 2) テーマは「安心してください～徳島県のがんサポート～」で内容は「国立がん研究センター・がん情報サービスと徳島県がん対策センターについて」をはじめ、がん相談支援センターの現状と役割、術後回復力強化のための手術前の過ごし方、口腔ケア医科歯科連携、痛みと緩和ケアなどについて講演を行った。
- 3) 最後にパネルディスカッションを行い、患者さんからいただいた質問に回答した。
- 4) 参加者は196名、年齢は50代、60代の方の参加が多かった。

金山部会長から、来年度以降も引き続き徳島県民がんフォーラム公開講座を行いたい。次年度は人数制限もなく開催できる見込みである。取り入れていただきたいテーマなどがあれば連絡をいただきたいとの要望があった。

3. PDCAサイクルについて

徳島赤十字病院高木医療ソーシャルワーカーから、「令和4年度都道府県がん診療連携拠点病院PDCAサイクルフォーラム」について口頭報告があった。

- 1) 令和5年2月6日(月)13時～16時にオンライン会議形式で開催された。藤河公認心理師とWebで参加した。
- 2) 内容は、数名の先生方から講演等があった。地域に関係なく均等な医療を受けることが出来る取り組みであるが、地域により抗がん剤の治療に通えないなど生活に密着した課題などが浮き彫りになった。がん相談支援センターの周知も行っているが、今後もさらにはがん相談支援センターの活動等を周知していかなければいけない。

香留委員から、PDCAサイクルとは目標の指標が出ていたと思うが、各施設で落とし込むという理解でいいのかとの質問があった。

高木医療ソーシャルワーカーから、会議でも同様の質問があった。厚生労働省担当者から、都道府県単位で落とし込みながら行っていく。全国的にも、これから取り組んでいくようであったとの回答があった。

PDCAサイクルフォーラムの資料は、国がんHPにある下記のURLをご参照ください。

https://ganjoho.jp/med_pro/vod/pdca/forum/20230206.html

4. 実務者のがん相談支援センター相談員研修等について

徳島大学病院秋月社会福祉士から、添付資料④に基づき「徳島県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会実務者会」について報告があった。

- 1) 令和4年8月9日、10月31日にオンラインで実務者会を開催した。
- 2) 「2022 年度情報から始まるがん相談支援研修～地域展開版～（高知）」を令和4年7月29日にオンラインで開催した。主催は高知大学医学部附属病院 がん相談支援センターであった。ファシリテーターとして徳島県も協力を行った。
- 3) 「令和4 年度地域相談支援フォーラム in 四国 ～つながろう！働きたいを支えよう！みんなで取り組む就労支援～」を令和4年10月22日にオンライン研修で開催した。主催は愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会であった。ファシリテーターとして徳島県も協力を行った。
- 4) 「高齢者のがんと意思決定支援 ACP を活用したがん相談支援」を令和5年2月25日にWebで開催予定である。主催は徳島県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会 徳島赤十字病院・徳島市民病院・徳島県立中央病院による企画である。募集人数にまだ達していないため参加いただきたい。

徳島大学病院秋月社会福祉士から、添付資料④に基づき都道府県がん診療連携拠点病院がん相談支援センター四国ブロック会申し合わせ事項(案)について説明があった。

- 1) 愛媛県・高知県・徳島県・香川県（四国圏内）が協働で開催・運営する会（ブロック会）を設置することについて関係者での検討会議が設けられた。
- 2) ブロック会は、単県では実施や対応が困難な、四国圏内のがん相談支援に携わる者に継続的かつ系統的な研修の提供及びがん医療の拡充に伴う相談支援センターの業務拡大への対応・がん相談支援体制の均霑化をブロック会というスケールメリットを活かしつつ、推進することとした。

徳島大学病院秋月社会福祉士から、都道府県がん診療連携拠点病院がん相談支援センター四国ブロック会申し合わせ事項(案)について賛同いただきたいとの要望があった。

金山部会長から、四国で協力しながら進めていこうと協働で研修会等開催・運営するブロック会を設置することとなった。四国ブロック会申し合わせ事項(案)で進めていってよいかとの伺いがあった。

出席者で検討の結果、承認された。

5. 療養冊子について

徳島県立中央病院有馬社会福祉士から、別紙資料に基づき「とくしまがん療養サポートブック」に

ついて説明があった。

- 1) 昨年度の部会では、療養冊子を作成することで、目次のみ報告を行った。
- 2) 情報提供・相談支援部会実務者会の地域療養ワーキンググループで療養冊子についてメーリングリストやWebで内容等を検討して取り組んできた。
- 3) 表紙については徳島県ご当地施設やすだち君などのイラストを入れた。この冊子で早期よりがん情報の活用やがん相談支援センターへの相談に繋がればと願い着手した。
- 4) 内容についてはスマホでも調べられるようQRコードも掲載している。
- 5) がんの治療の流れ、がんの基礎知識、セカンドオピニオン、抗がん剤治療、放射線療法、アピアランス、緩和ケア、子育て支援、就労支援なども掲載した。
- 6) 在宅診療や、がんサロン、患者会についても掲載した。
- 7) 各相談窓口のリストも掲載した。全50ページB5B版の冊子となる。

有馬社会福祉士から、以上の内容で印刷にかけたい。3月末までには出来上がる予定である。できれば、診察時に患者さんにお渡しいただけるようお願いしたいとの要望があった。

金山部門長から、多数の情報が入り網羅されている。診察時に患者さんに手渡していきたいとの意見があった。

続けて金山部門長から、どこで冊子にしていだけるのかとの質問があった。

宮越技術補佐員から、各がん診療連携拠点病院で印刷の発注をしていただきたい。当院では2000冊発注を行う予定であるとの回答があった。

【協議事項】

6. 来年度事業計画について（実務者会）

徳島大学病院実務者会総括の秋月社会福祉士から、次年度事業計画について説明があった。

- 1) 地域相談支援フォーラム in 四国、～情報から始まるがん相談支援～研修、相談対応の質保証(QA)を学ぶ研修を開催当番県として徳島県主催で開催予定である。

徳島大学病院秋月社会福祉士から、研修会開催に際し企画運営、ファシリテーターの協力をいただきたい。また徳島県は他県に比べて研修会の参加者が少ないため、がん相談の近点化のためにも参加いただきたいとの要望があった。

7. その他

金山部門長から、今年度末で退職となる。来年度よりがん情報提供・相談支援部会長を徳島大学病院滝沢教授に引き継ぎたい。滝沢教授を部会長として了承いただきたいとの伺いがあった。

出席委員で検討の結果、了承された。

滝沢教授から、情報提供・相談支援部会長として多職種との連携、サポートの連携等充実できるようにしていけるよう、今後も引き続き部会員の方々に協力いただきたいとの要望及び、自己紹介と挨拶があった。

西村会長から、療養冊子作成のお礼があった。診察時に活用したい。また、会長として2年間してきたが、今年度末で交代することとなったとの、お礼と挨拶があった。

川端委員から、当院の相談を担当することになり日が浅いため、十分相談に関わっていないが相談部門が患者さんに知れ渡るような取り組みを行いたいとの意見があった。

石倉委員から、連携が大事な部門であり、地域の医療機関との連携も大事である。連携のシステム作りが大切である。また、療養冊子については配布していただけるものと思っていたとの意見があった。

金山部門長から、各病院の補助金で作成いただきたいとの意見があった。

古本委員から、療養冊子について院内プリンターで印刷も可能かと思う。患者の相談に力を入れているが今後も新しい指針に取り組めるようにしていきたいとの意見があった。

安藤委員から、当院も新しい指針に取り組んでいきたいとの意見があった。

影治委員から、当院では拠点病院と連携を行いながら緩和ケア在宅診療・訪問看護などにも力を入れており在宅看取りも年間30件を超えている。今後は療養冊子を活用しながら相談対応にも力を入れていきたいとの意見があった。

林委員から、当院はまだマンパワー等問題があり昨年から前進したとは言いがたいが、皆様の力を借りながら行っていきたいとの意見があった。

漆川委員から、療養冊子を十分に活用していきたいとの意見があった。

田上委員から、当院では阿南市歯科医師会と連携しながら口腔ケア管理を開始してがん患者さんのケアを行っている。また心理士を常勤で雇用してサポート等取り組んでいるとの報告があった。

森委員から、徳島県医師会も協力できることはさせていただきたい。最近、認知症や高齢者のがん患者さん、そのご家族の方の相談支援も増えており、需要があると思う、今後、活動に取り入れていただきたいとの要望があった。

傳平委員から、保健所は、指定難病の申請窓口であることから、疾病・疾患の相談もある。また、がん患者さんを含む両立支援（徳島県地域両立支援推進チーム）のメンバーでもあり、住民からの相談については、地域支援の立場で市町村や医療機関の相談支援員等と連携しつつ対応していくので、今後ともご協力をお願いしたいとの要望があった。

香留委員から、患者や家族はコロナ禍での環境でさまようこともあるが、ご支援いただきながらこの環境をより良いものにしていきたいとの意見があった。

東條委員(代理:佐藤氏)から、療養冊子作成ありがとうございます。高齢者のがんでは、コロナ禍での在宅看取りが多い年であった。しかし若い方のがん患者さんも増えている。抗がん剤が効いている間は就労支援や職場復帰、また子育て支援など心理士にも支援をいただいている。できればがん診療連携拠点病院から在宅に早めに繋がるようにコントロールをしていただきたいとの要望があった。

飛梅委員から、療養冊子について訪問歯科診療や口腔ケアについて掲載いただき感謝している。徳島県歯科医師会も来年度以降に徳島県立病院や徳島市民病院に歯科医師の派遣を行い連携を強化する予定である。療養冊子について当会会員にも配布を行いたいため、印刷業者をお教えいただきたいとの要望があった。

宮越技術補佐員から、徳島県がん対策センターのホームページに掲載する予定であるとの回答があった。

有馬社会福祉士から、国立がん研究センターでもリンクされている。徳島がん対策センターホームページにも掲載いただきたいとの要望があった。

金山部会長から、徳島県がん対策センターホームページに掲載も行うため、ぜひ活用いただきたいとの要望があった。

中村委員から、徳島県薬剤師会でも広報等、薬局を通じて協力をさせていただきたいため連絡いただきたいとの要望があった。

金山部会長から、有意義な情報共有の会になった。今年度末で退職となる旨のお礼と挨拶があり
閉会となった。